



# STAR'S REPORT

2019年12月期 報告書

スター精密株式会社

証券コード：7718

## 株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

ここに2019年12月期(2019年1月1日から2019年12月31日まで)の事業の概況についてご報告申し上げます。

2020年3月

代表取締役社長 佐藤 衛



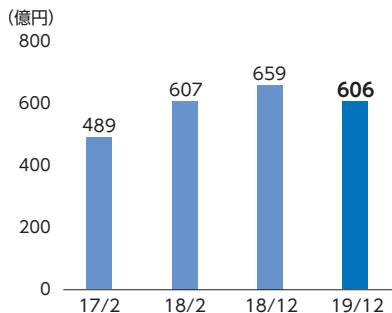
### >当期の業績について

当期の売上高は、606億5千1百万円、営業利益は58億1千7百万円、親会社株主に帰属する当期純利益は精密部品事業関連の事業構造改革費用の計上もあり、40億5千3百万円となりました。

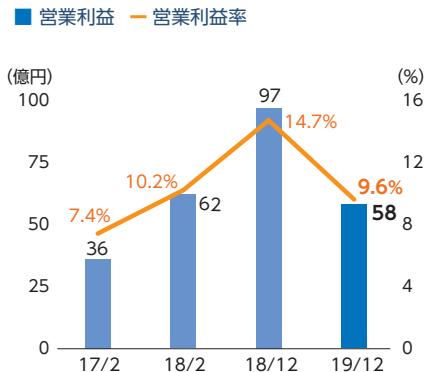
当期は期初において厳しい環境を予想した事業計画を見積もっておりましたが、さらに二度の下方修正を余儀なくされました。想定外であったのは、工作機械における欧州市場と中国市場の動きです。欧州では1年を通じて需要が弱含みとなり、ハイエンド機の需要が大きく減少しまし

## 連結業績ハイライト

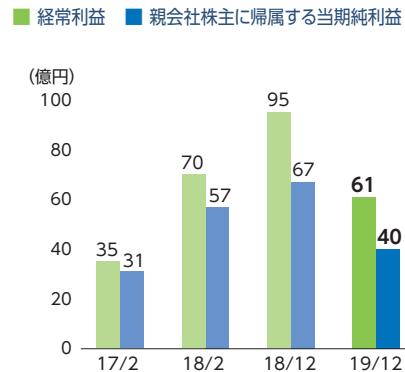
### 売上高



### 営業利益／営業利益率



### 経常利益／親会社株主に帰属する当期純利益



(注)2018年12月期は決算期変更のため、当社および国内連結子会社は10カ月間・海外連結子会社は12カ月間の変則決算となっております。

た。中国では通信関連での底堅い需要があったため、第3四半期までは好調に推移しましたが、その後、米中貿易摩擦の激化により、販売が大きく減少しました。

2020年も通期の業績としては慎重な計画を立てておりますが、こうした厳しい環境は、一過性のものと考えています。第4次産業革命といわれるIoTの時代が進展を続け、その中で生産工場の自動化に貢献する工作機械(自動旋盤)の需要は長期にわたって継続するものと考えているからです。したがって、足元の厳しい環境のなか環境好転後の需要増に迅速に対応できるよう、今から備える必要があると考えています。

### >世界の市場環境について

主力事業の工作機械事業における現在の世界の市場環境について、説明させていただきます。

### <中国市場>

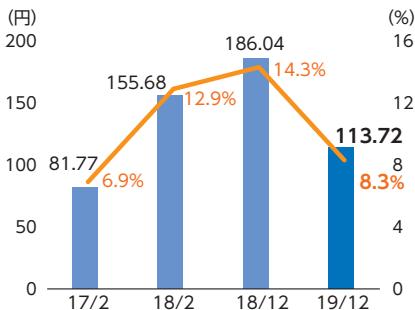
米中貿易摩擦の結果として経済全体が停滞していますが、中国の通信に関する設備投資は、引き続き高い水準で実施が見込まれます。当社製品は通信設備関連の精密部品製造に適した工作機械であり、第3四半期までは中国市場での売上は増加傾向で推移しました。しかしその後、米中貿易摩擦の影響により通信設備関連の生産に調整が入ったことで、販売が減少しました。ただし、調整は一時的なものであり、5Gを含めた通信設備導入は拡大していくものと予想しており、今後販売は回復していくものと考えています。

### <欧州市場>

2019年に想定以上に欧州市場が低調だった理由は、欧州自動車産業の不振です。中国向けの自動車輸出が減

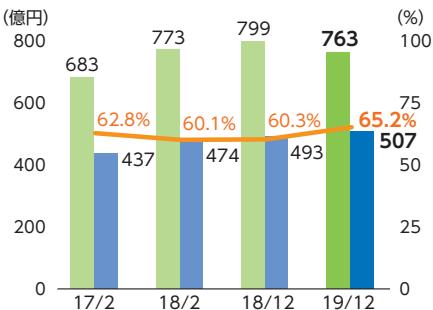
1株当たり当期純利益／ROE(自己資本当期純利益率)

■ 1株当たり当期純利益 — ROE(自己資本当期純利益率)



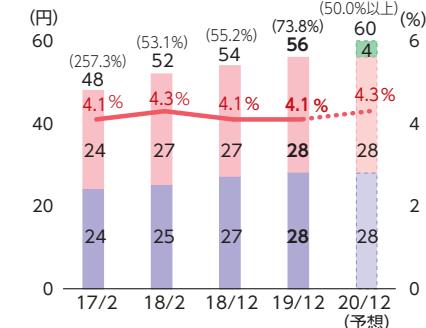
総資産／純資産／自己資本比率

■ 総資産 ■ 純資産 — 自己資本比率



株主還元

■ 1株当たり期末配当 ■ 1株当たり中間配当 ■ 70周年記念配当  
— DOE(連結株主資本配当率) ( )内数値は総還元性向



少し、それが部品メーカーに波及したことが要因の一つですが、その他の問題も重なりました。

一つはブレグジットの問題です。不透明感が続くなか、欧州企業は積極的な経済活動が難しい状況にありました。今後、EUや各国との通商交渉が進めば、徐々に企業活動が回復傾向に転じると考えています。

もう一つは、2021年から開始される欧州での自動車の排ガス規制です。各自動車メーカーとも規制に適合するモデルの検討段階であることから、現状では積極的な設備投資は難しい状況です。しかし、方向性が決定されれば、欧州域内の自動車生産が活発化してくると考えられます。

## <米国市場>

米国市場は前期に引き続き売上は堅調に推移しました。米国市場での当社のユーザーは半分以上が医療関連であり、医療業界全体の好調な市場環境を受けて当社も好調を維持しました。また、自動車産業についても米国では中国や欧州市場とは異なり、比較的堅調に推移しました。今後も通商問題の激化による市場への影響は考えられるものの、全体としては底堅く推移することを見込んでいます。

## <日本市場>

日本市場では業界ごとの好不調がはっきりしていますが、年の後半にかけ米中貿易摩擦の激化により、主力の自動車産業を中心に中国や欧州向けの輸出が振るわず、自動車部品メーカーを中心に設備投資に慎重な動きが続いています。

## >特機事業の現状と今後について

特機事業については、米国市場では需要は堅調に推移しましたが、販売代理店の在庫調整の影響もあり、販売は低調な動きとなりました。また生産面においては、米中貿易摩擦への対応として、主力の一部製品については生産を中国からベトナムに移管しています。ベトナムでの生産は中国よりもコストメリットが期待できるため、貿易摩擦への対応だけでなく今後メインの生産場所として特機事業の収益増加に貢献するものと考えています。

日本市場では2019年10月の軽減税率適用に関連した設備更新への補助金が、特需の要因となりました。次期にはその反動減が出てくるものの、モバイルPOS (mPOS) 市場については長期的な需要の拡大を期待しています。2020年は東京オリンピック・パラリンピックの年でもあり、キャッシュレス決済の補助金に関しては、同年の春まで継続されます。さらにmPOSの潜在市場であるキャッシュレス決済に未対応の中小店舗はまだ多く残されています。

また欧州でも現金決済中心の中小店舗に対し、政府主導でPOS機器の普及を図る動きがあり、補助金などの制度ができれば、mPOS市場はさらに大きく伸びると考えられます。

## >中期経営計画の進捗について

現行の中期経営計画は2020年が最終年度となりますが、次なる成長に向けた準備を着実に進めています。

工作機械事業では、主軸固定型自動旋盤の市場投入により製品ラインアップを拡充するための対応を進めています。また稼働監視システムの販売を開始しましたが、さらにIoTを生かしたソフトサービスのさらなる展開を目指しています。生産面では、モジュラー設計・生産によるリー

ドタイムの短縮と在庫削減に引き続き取り組んでいきます。また7月に菊川工場に新設するソリューションセンターの活用や海外販売拠点の拡充により、ビフォア・アフターサービスの強化を図っていきます。同センターの稼動が、ユーザーの顧客満足や当社プレゼンスの向上に大いに貢献すると考えています。

特機事業では、これまで進めてきたモバイルPOS向け高付加価値製品のさらなる拡充を図るほか、引き続き欧州販売拠点の再編を進めています。また新システムの導入等によるサプライチェーンマネジメントの強化に取り組んでいます。

精密部品事業では、基本的に非時計部品から撤退し、時計部品の製造・販売に集中するとともに、運営組織のスリム化による固定費削減により収益性の改善を進めています。

課題の「新規事業の創出・育成」については、外部との連携による新規事業およびM&Aの検討を進めるほか、新設した事業企画部門を中心に新たな事業の創出を目指しています。

### >次期の見通しについて

今後の世界経済につきましては、米中の通商問題、英国のEU離脱に伴う通商交渉、中東を巡る地政学リスクの動向など先行き不透明な状況が続くことが見込まれます。

このような状況のなか、次期の連結業績につきましては、主力の工作機械事業は、国内および欧米市場などで設備投資に慎重な動きが続き、売上は減少する見込みです。特機事業は、国内市場では消費増税に伴う特需の反動減が見込まれるものの、その他の地域では売上は堅調に推移する見通しです。また時計部品への集中を進める

精密部品事業では、売上は減少する見込みです。

以上により、次期の連結業績見通しは、売上高は前期比9.0%減の552億円、営業利益は同20.9%減の46億円、経常利益は同22.1%減の48億円、親会社株主に帰属する当期純利益は同21.1%減の32億円としています。

なお、新型コロナウイルス感染症の影響につきましては、現時点では、適正に見積ることができないため、上記業績見通しには織り込んでおりません。

### >コーポレートガバナンスおよび株主還元について

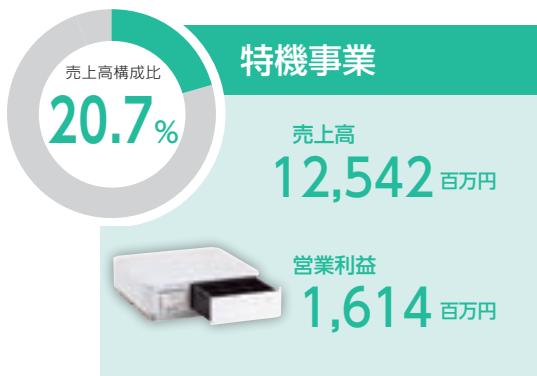
コーポレートガバナンスおよび株主還元については、当社の取締役会の構成は、すでに社外取締役が過半数を占めており、株主への還元についても総還元性向50%以上を基準に連結株主資本配当率(DOE)を勘案しながら実施していくことを基本方針としています。

当期も約10億円の自社株買いを実施し、取得した全株式の消却を実施しました。また当期末の配当は、1株につき28円とさせていただきます。これにより、当期の配当金は中間配当の28円と合わせて前期に比べ2円増配の年間56円となりました。

次期の配当は、2020年7月に創立70周年を迎えるにあたり当社は本年12月31日現在の株主の皆様へ1株につき4円の記念配当を実施する予定であります。これにより当期に比べ4円増配の年間60円(中間配当金28円、記念配当4円を含む期末配当金32円)を予定しております。

引き続き積極的に事業と経営の改革を続け、企業価値の向上に向けてグループ一丸となって努力してまいります。

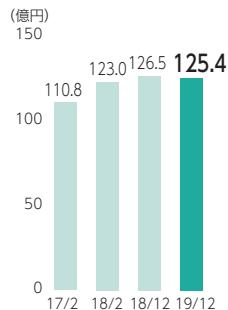
株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。



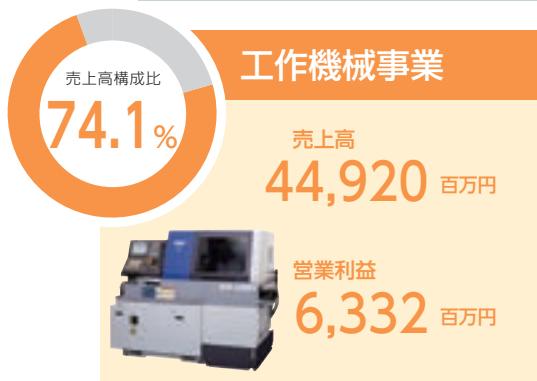
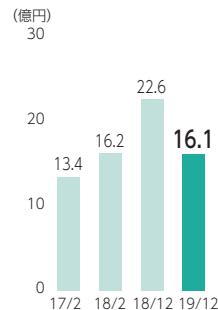
### ▶ 当期のポイント

- 米国市場は販売代理店の在庫調整等の影響により低調に推移
- 欧州市場は市況の低迷が続き低調に推移
- アジア市場は中国においてドットインパクト製品の需要が落ち込んだが、その他の地域では堅調に推移
- 国内市場は消費税増税に関連する特需もあり好調に推移

### 売上高



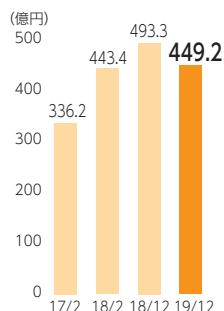
### 営業利益



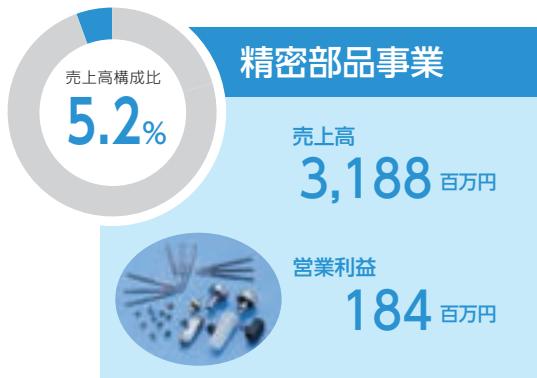
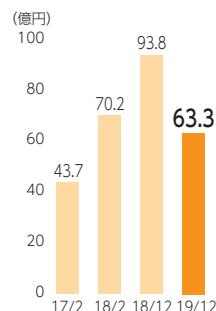
### ▶ 当期のポイント

- 米国市場は医療関連を中心に堅調に推移
- 欧州市場は自動車関連を中心に市況が低迷し低調に推移
- アジア市場は中国において医療関連や通信関連が堅調に推移したが、その他の地域では低調に推移
- 国内市場は主力の自動車関連で設備投資に慎重な動きがみられ低調に推移

### 売上高



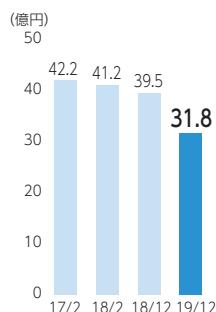
### 営業利益



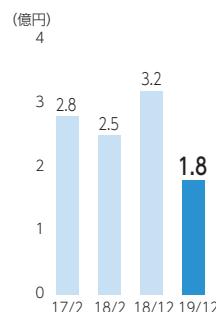
### ▶ 当期のポイント

- 時計部品は腕時計メーカーの在庫調整等の影響により、非時計部品は中国における需要の落ち込みや海外生産拠点の再編等の影響により、ともに低調に推移
- 2020年3月末をもって基本的に非時計部門から撤退し、時計部品の製造・販売に集中することにより、当事業の収益性の改善を図る

### 売上高



### 営業利益



(注)2018年12月期は決算期変更のため、当社および国内連結子会社は10カ月間・海外連結子会社は12カ月間の変則決算となっております。

## 「EMO Hannover 2019」 国際金属加工見本市に出展

2019年9月16日～21日までの6日間、ドイツ・ハノーバーにて「EMO Hannover 2019」国際金属加工見本市に出展しました。EMOは世界最大規模の国際工作機械見本市で、今回は世界150カ国から約12万人もの来場者がありました。

当社ブースでは「SX-38」「SV-20R」「SW-12RII」「SR-20JII」の4機種を展示し、連日多くのお客さまにお越しいただきました。なかでも注目を集めた新製品の「SX-38」は、旋回式ミリングユニットを装備したクシ刃型刃物台を搭載し、正面側／背面側での斜め加工を可能とした大径高機能モデルです。タレット型刃物台の仕様により、工具ユニットの着脱が容易なクイックチェンジ方式の「type A」と、工具の過度な振動や発熱を抑制するワンポジション工具駆動方式の「type B」の2タイプをラインアップ。さらに、多様化が進む部品加工ニーズに柔軟に対応するため、従来機種同様に、ガイドブッシュの有無を自由に変更することができるガイドブッシュ切換機構を採用しています。



スイス型CNC自動旋盤 SX-38 type B

## mPOS向け製品、新たなラインアップを発売



mC-Sound™ (2019年9月発売)



mC-Bridge™ (2019年4月発売)

mPOS市場向けの周辺機器ブランドmCollection®の新たなラインアップとして、「mC-Sound™」「mC-Bridge™」を発売しました。

「mC-Sound™」は、飲食店などのキッチンにおいて、オーダーが入ったことをプリンターでの伝票発行と同時に音声で通知することができるメロディースピーカーです。業界で初めての音声の種類と音量をタブレットなどの上位端末で制御、再生する機能を有するほか、任意の音声データを登録して再生する受信データ再生機能も搭載しています。

「mC-Bridge™」は、iOS環境での自動つり銭機の導入を可能にする機器です。既存の自動つり銭機は、有線のシリアルインターフェースによる通信が主流で、iOS環境では利用できませんでしたが、本機により通信をLANに変換することでiOS環境においても利用が可能となりました。iOS端末を使用している店舗でも容易に自動つり銭機の導入を図ることができます。

今後も関連製品を充実させ、mPOS分野でのさらなるシェア拡大を図ります。

未来へつづく

# スター精密 70 年のあゆみ

スター精密は2020年7月に創立70周年を迎えます。  
今回の特集ではスター精密の70年のあゆみをご紹介します。

1950年

## (株)スター製作所設立

静岡市手越(現静岡市駿河区手越)にて、資本金50万円、社員6名、自動旋盤5台で、腕時計部品、カメラ用部品等の製造、販売を行う町工場として始めました。

1958年

## 自動旋盤の販売を開始

自動旋盤を完成させ、「ユーザーがユーザーのために作った自動旋盤」をキャッチフレーズに、販売を開始。

1950



1960年

## 東海精密(株)設立

シチズン時計(株)との共同出資により東海精密(株)を設立。時計ネジの専門工場として業績を伸ばしました。

1962年

## 自動旋盤の輸出開始

輸出第1号機が英国へ。海外への販路を開拓し、シェアを着々と拡大しました。

1960

1965年

## スター精密(株)に社名変更

東海精密(株)を吸収合併し、現在の社名に変更しました。



1970

1976年

## NC自動旋盤の製造・販売を開始

NC自動旋盤の製造・販売を開始。精度が高く、独自のアイデアと機構を盛り込み、好評を博しました。

1979年

## 小型プリンターの製造・販売を開始

パーソナルコンピュータの普及による情報化時代に対応すべく、デジタルプリンターへ着手し、製造・販売を開始しました。



1980

1981年

名古屋証券取引所市場第二部に株式上場

1984年

名古屋証券取引所市場第一部に変更上場

(2006年に上場廃止)

菊川工場新設

工作機械の新たな生産拠点を静岡県小笠郡菊川町(現菊川市)に新設。

最新鋭の合理化システム機を設置し、連続無人運転を可能にすることで生産性の向上に貢献しました。

1989年

斯大精密(大連)有限公司設立

中国・大連にプリンターの生産子会社として設立。大連経済技術開発区に外資企業としては4番目の進出となりました。



1990年

東京証券取引所市場第一部に株式上場

創立40年にして東京証券取引所市場第一部へと上場を果たしました。

1990

2004年

斯大精密(大連)有限公司にてCNC自動旋盤の完成機の生産を開始

コストダウンおよび、生産能力強化のため、他社に先駆けて中国での完成機組み立てを開始しました。

2000

2012年

スターマイクロニクス マニュファクチュアリング(タイランド)Co., LTDを設立

タイ・ナコンラチャシマに工作機械の生産子会社として設立。アジアをはじめとする新興国市場の拡大に対応し、日本、中国、タイの3拠点による工作機械生産体制を確立しました。

2010

2020年

新本社ビル竣工<4月予定>

BCP(事業継続計画)の強化および、ICT(情報通信技術)を活用した新たなワークスタイルを確立することで、生産性の向上を目指します。



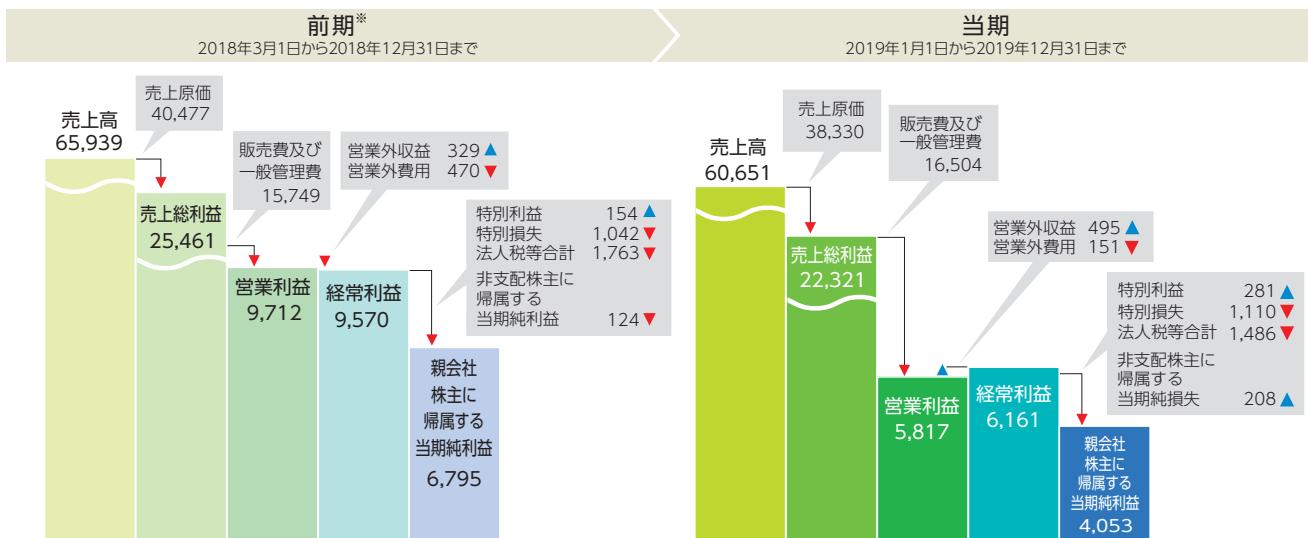
菊川工場新棟ソリューションセンター竣工<7月予定>

各種自動旋盤の常設展示のほか、ショールーム、NCスクールなどを開設。実機を使用した機械の説明・試作加工依頼などのビフォアサービスに対応し、品質強化を図ります。



2020

## ▶ 連結損益計算書の概要 単位:百万円

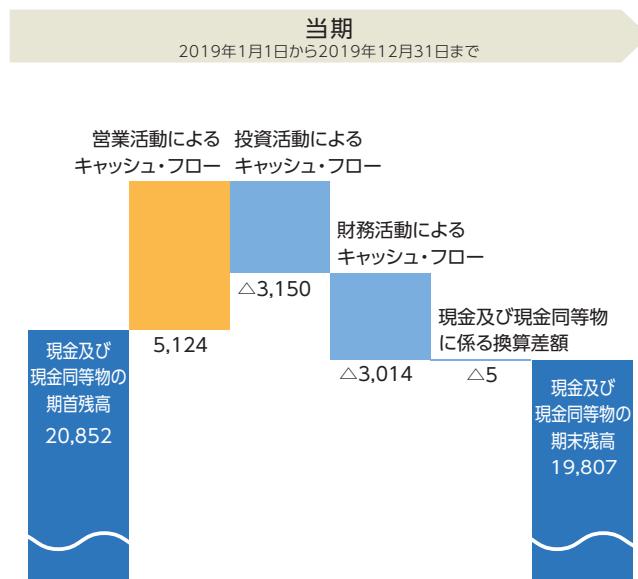


\*前期は決算期変更のため、当社および国内連結子会社は10カ月間・海外連結子会社は12カ月間の変則決算となっております。

## ▶ 連結貸借対照表の概要 単位:百万円



## ▶ 連結キャッシュ・フロー計算書の概要 単位:百万円



## ▶ 会社概要

設立	1950年7月6日
資本金	127億2千1百万円
従業員数	486名
	(注) 契約社員等の当期の年間平均雇用人員40名を除いております。
営業品目	1.特機(小型プリンター) 2.工作機械(CNC自動旋盤等工作機械) 3.精密部品(腕時計部品、自動車用・空調機器用・医療用等部品)

## ▶ 役員 (2020年3月26日現在)

代表取締役 会長	佐藤 肇
代表取締役 社長	佐藤 衛
常務取締役	笹井 康直
社外取締役	岩崎 清悟
社外取締役 常勤監査等委員	西川 勢一
社外取締役 監査等委員	洞江 秀
社外取締役 監査等委員	杉本 基

上席執行役員	杉浦 啓之
上席執行役員	山梨 正人
執行役員	寺尾 和芳
執行役員	増田 文雄
執行役員	佐藤 誠悟

## ▶ グローバルネットワーク

### 国内拠点

### 事業所 国内子会社

- 本社部門・特機事業部 (株)ミクロ札幌  
本社
- 特機事業部  
品質技術センター
- 機械事業部  
菊川工場  
東京営業所  
大阪営業所  
名古屋営業所  
諏訪営業所
- 精密部品事業部  
富士工場
- スター精密グループ  
東京オフィス

### 海外拠点

#### 北米

- スターマイクロニクス  
アメリカ・INC(米国)
- スター CNC  
マシンツール Corp.(米国)
- スターアメリカ  
ホールディング・INC(米国)

#### 欧州

- スターマイクロニクス  
ヨーロッパ・LTD(英国)
- スターマイクロニクス・  
AG(スイス)
- スターマイクロニクス  
GB・LTD(英国)
- スターマイクロニクス・  
GmbH(ドイツ)
- スターマシンツール  
フランス・SAS(フランス)

#### アジア

- スターマイクロニクス サウスイースト  
アジアCo., LTD(タイ)
- 天星精密有限公司(香港)
- 上海星昇機械有限公司(中国)
- スターマイクロニクス(タイランド)  
Co., LTD(タイ)
- スターマイクロニクス  
マニュファクチャリング  
(タイランド)Co., LTD(タイ)
- ス大精密(大連)有限公司(中国)

上海星昇機械有限公司(中国)は2019年12月末に解散し清算中のため上記から除外しました。

## ▶ 大株主(上位10名) 持株数(千株) 持株比率(%)

日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	3,772	10.7
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	3,450	9.8
株式会社静岡銀行	1,582	4.5
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE HCR00	1,282	3.6
ザ バンク オブ ニューヨーク メロン 140042	735	2.1
鈴木 通	633	1.8
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	631	1.8
ジェーピー モルガン チェース バンク 385151	546	1.6
日本生命保険相互会社	491	1.4
ステート ストリート バンク ウェスト クライアント トリートリー 505234	487	1.4

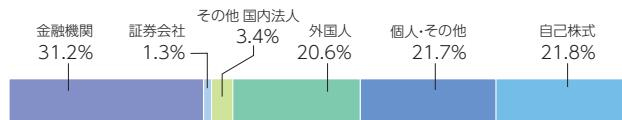
(注1) 当社は、自己株式9,841千株を保有しておりますが、上記の大株主から除いております。  
(注2) 持株比率は、自己株式を控除して計算しております。

## ▶ 株式状況

発行可能株式総数	158,000,000株
発行済株式総数	45,091,334株
株主数	9,466名

(注) 自己株式の消却に伴い、発行済株式総数は前期末に比べ680,900株減少しております。

## ▶ 所有者別分布状況



事業年度	毎年1月1日から12月31日まで
定時株主総会	毎年3月
剰余金の配当の基準日	期末配当 12月31日 中間配当 6月30日
定時株主総会の基準日	毎年12月31日
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	東京都府中市日鋼町1-1 電話 0120-232-711 (通話料無料) 《郵送先》〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
特別口座の口座管理機関	東京証券代行株式会社
同連絡先	東京都千代田区神田錦町三丁目11番地(NMF竹橋ビル6F) 電話 0120-49-7009(通話料無料) 《郵送先》〒168-8522 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 東京証券代行株式会社 事務センター
上場金融商品取引所	東京証券取引所市場第一部
公告方法	電子公告により行います。ただし、やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は日本経済新聞に掲載します。 公告掲載URL ( <a href="https://www.star-m.jp">https://www.star-m.jp</a> )
単元株式数	100株

## ● ホームページのご案内

当社のホームページでは、会社情報、IR情報や新製品に関するお知らせなどさまざまな最新情報を掲載しております。ぜひご覧ください。

<https://www.star-m.jp>



## 株式に関するお手続きについて

お手続き内容	お問合せ窓口	
	証券会社に口座をお持ちの株主様	証券会社に口座をお持ちでない株主様
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 住所・氏名等のご変更</li> <li>● 単元未満株式の買取および買増請求</li> <li>● 配当金の受領方法のご変更</li> </ul>	<p><b>口座をお持ちの証券会社</b></p>	<p><b>特別口座の口座管理機関</b> <b>東京証券代行株式会社</b></p> <p>《連絡先》 東京都千代田区神田錦町三丁目11番地(NMF竹橋ビル6F) 電話 0120-49-7009(通話料無料) ※三井住友信託銀行株式会社全国本支店(コンサルティングオフィス・コンサルプラザを除く)においてもお取次しております。</p> <p>《郵送先》 〒168-8522 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 東京証券代行株式会社 事務センター</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 未受領の配当金に関するお問合せ</li> <li>● 郵便物についてのお問合せ・再送付のご依頼</li> <li>● 株式事務に関する一般的なお問合せ</li> </ul>	<p>すべての株主様</p> <p><b>株主名簿管理人</b> <b>三菱UFJ信託銀行株式会社</b> 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行 本支店でお支払いいたします。</p> <p>《連絡先》 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 電話 0120-232-711 (通話料無料)</p> <p>《郵送先》 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部</p>	

## スター精密株式会社

〒422-8654 静岡県静岡市駿河区中吉田20-10  
TEL.054-263-1111 FAX.054-263-1057



見やすいユニバーサル  
デザインフォントを採用  
しています。

